

黒田精工株式会社

(証券コード：7726)

2022年3月期第2四半期 決算補足説明資料

<目次>

1. 2022年3月期第2四半期決算概要
2. 2022年3月期通期連結業績予想、配当予想

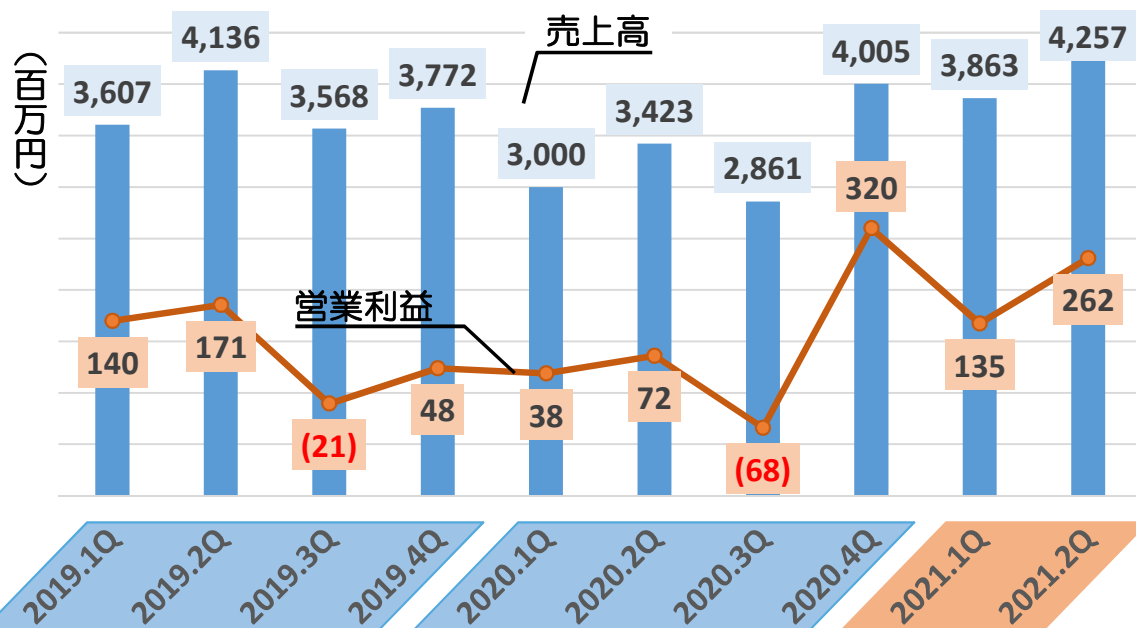
<参考資料>中期経営計画Vision2025（概要）

2021年11月15日

1. 2022年3月期 第2四半期決算概要

2021年度第2四半期連結決算概要

(単位：百万円)	2020年度 第2四半期累計	業績予想 21年8月12日付	2021年度 第2四半期累計	増減 (前年同期比)	増減 (業績予想比)
受注高	5,576	-	10,074	+4,498	-
売上高	6,423	8,000	8,120	+1,697	+120
営業利益	110	320	397	+287	+77
経常利益	75	270	397	+322	+52
親会社株主に帰属 する当期純利益	△15	170	252	+267	+82



- ◆ 中国市場の需要が総じて好調に推移、加えて欧米市場においても需要が堅調に回復。
- ◆ 主要顧客の半導体市場の好調に加えて、自動車／家電向け金型システム商品の需要が堅調に推移し、受注高は大幅に改善。
- ◆ 売上高は駆動システムの増産が寄与し、8,120百万円と前年同期比で増収、利益面でも増収効果が寄与し、営業利益397百万円、経常利益397百万円、親会社株主に帰属する当期純利益252百万円と、いずれも前年同期比で大幅に改善。

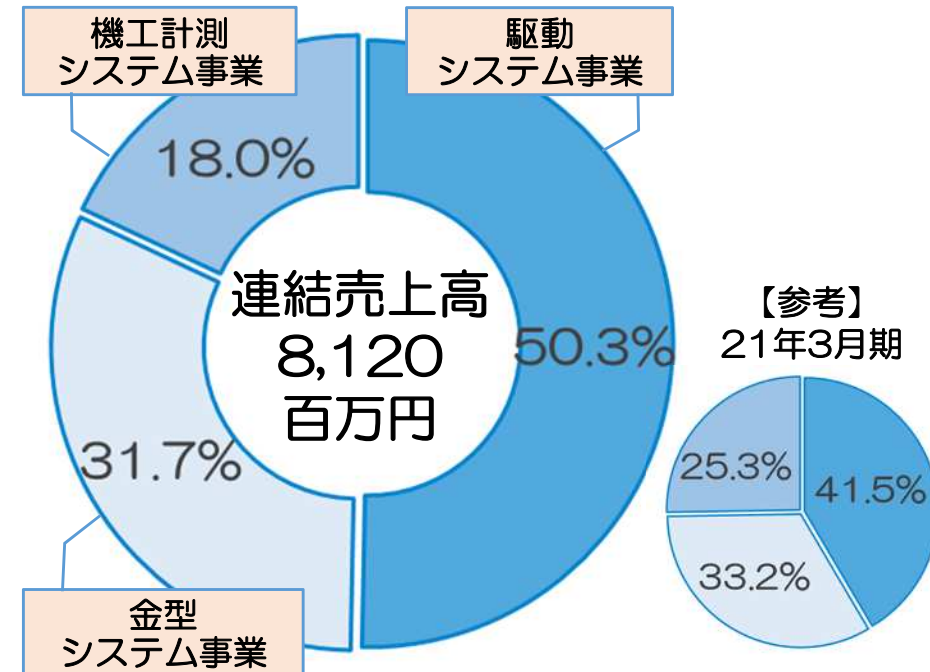
セグメント別概要

単位：百万円	受注高 (前年同期比増減)	売上高 (前年同期比増減)	営業損益 (前年同期比増減)
駆動システム事業	5,324 (+3,084)	4,088 (+1,306)	530 (+494)
金型システム事業	2,773 (+1,117)	2,578 (+457)	72 (Δ17)
機工計測システム事業	1,984 (+297)	1,460 (Δ64)	Δ192 (Δ188)

◆駆動： 主要市場の半導体製造装置／分析関連装置分野向けを中心に受注高は高水準で推移。生産体制増強により売上高も伸び、前年同期比で大幅な増収増益。

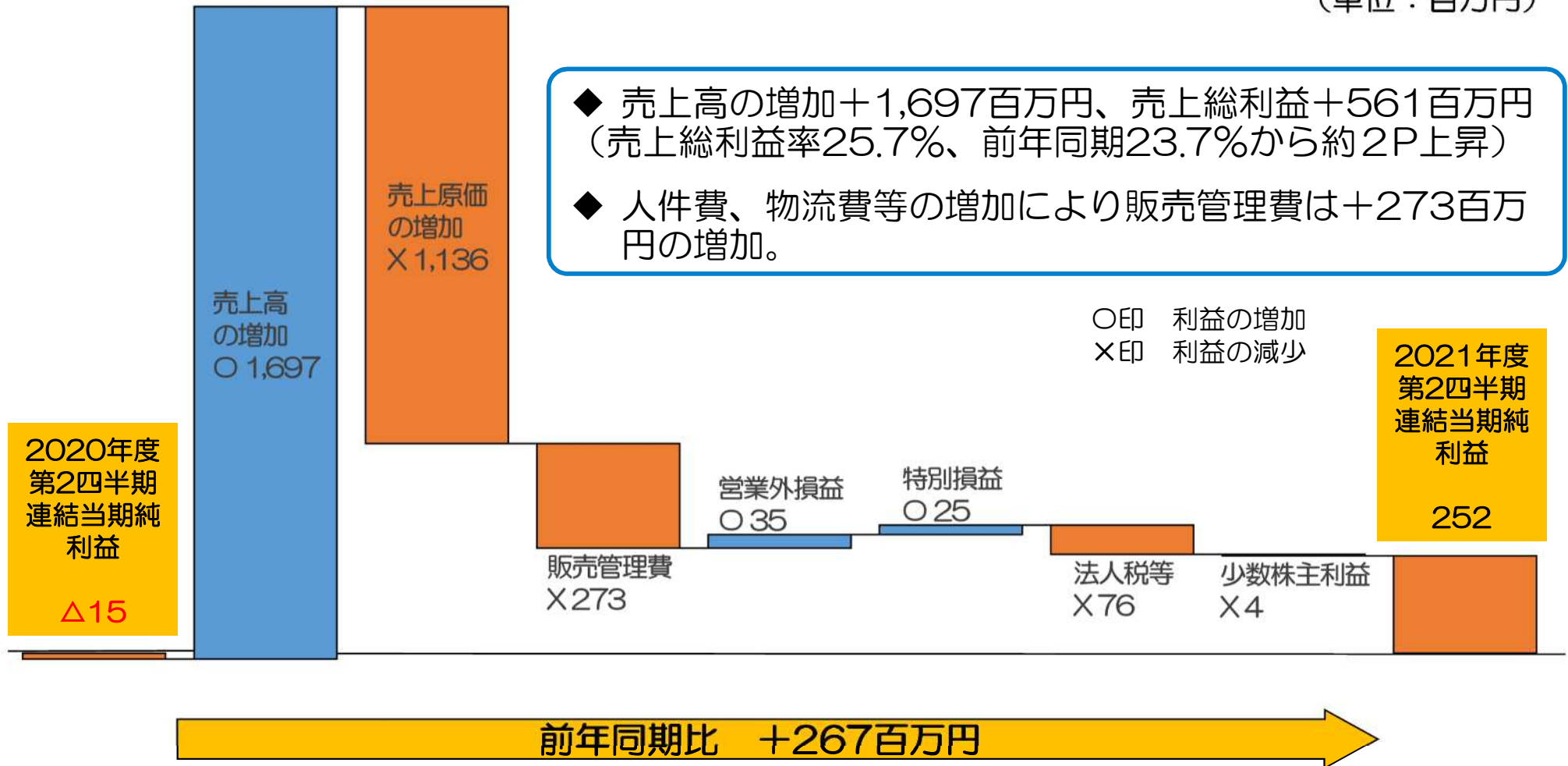
◆金型： 車載用モーター向け金型／家電用モーターコアで受注高、売上高が増加。一方で、新規プロジェクト向け先行投資負担等により、営業利益は微減。

◆機工計測： 工作機械等システム商品の緩やかな市況回復に伴い受注高は前年同期を上回るも、収益性の高い要素機器商品の市況回復遅れ等から減収減益。



前年同期比 連結当期純利益の変動要因

(単位：百万円)



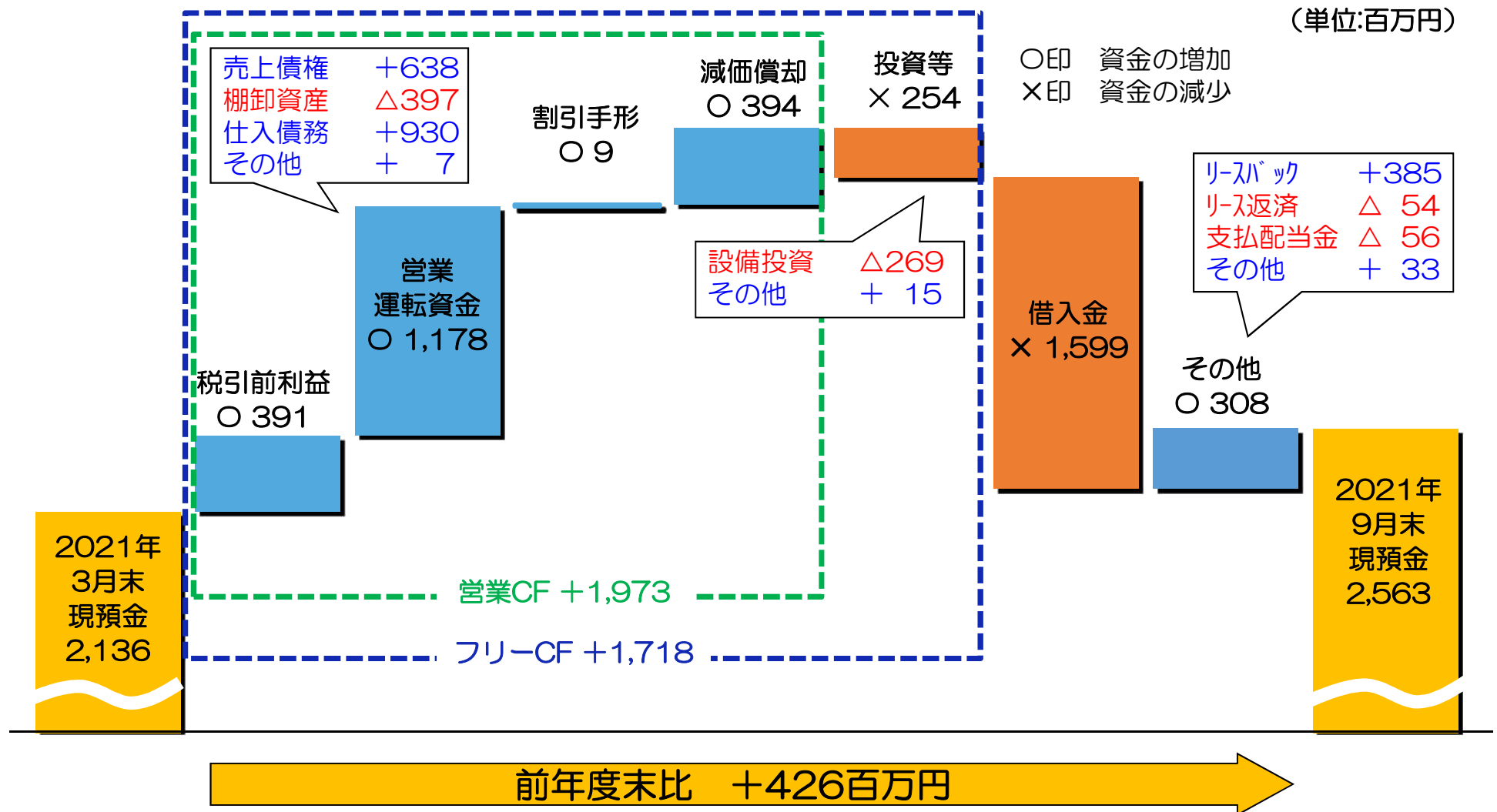
連結貸借対照表

	2020年度	2021年度 第2四半期	増減
総資産 (百万円)	19,659	20,000	+341
純資産 (百万円)	9,306	9,572	+266
自己資本比率 (%)	46.4	47.0	+0.6 P
1株あたり純資産 (円)	1,610	1,655	+45



- ◆ 総資産：前年度末比+341百万円の増加
⇒ 流動資産+311百万円（棚卸資産の増加等）、固定資産+30百万円（有形固定資産の増加等）
- ◆ 純資産：前年度末比+265百万円の増加
⇒ 株主資本+207百万円（利益剰余金の増加等）、その他の包括利益累計額+55百万円（為替換算調整勘定等の増加）
- ◆ 自己資本比率：47.0% 前年度末比で+0.6ポイントの上昇

前年度末比 連結キャッシュ・フローの変動要因



2. 2022年3月期通期連結業績予想、配当予想

2021年度通期連結業績、配当予想

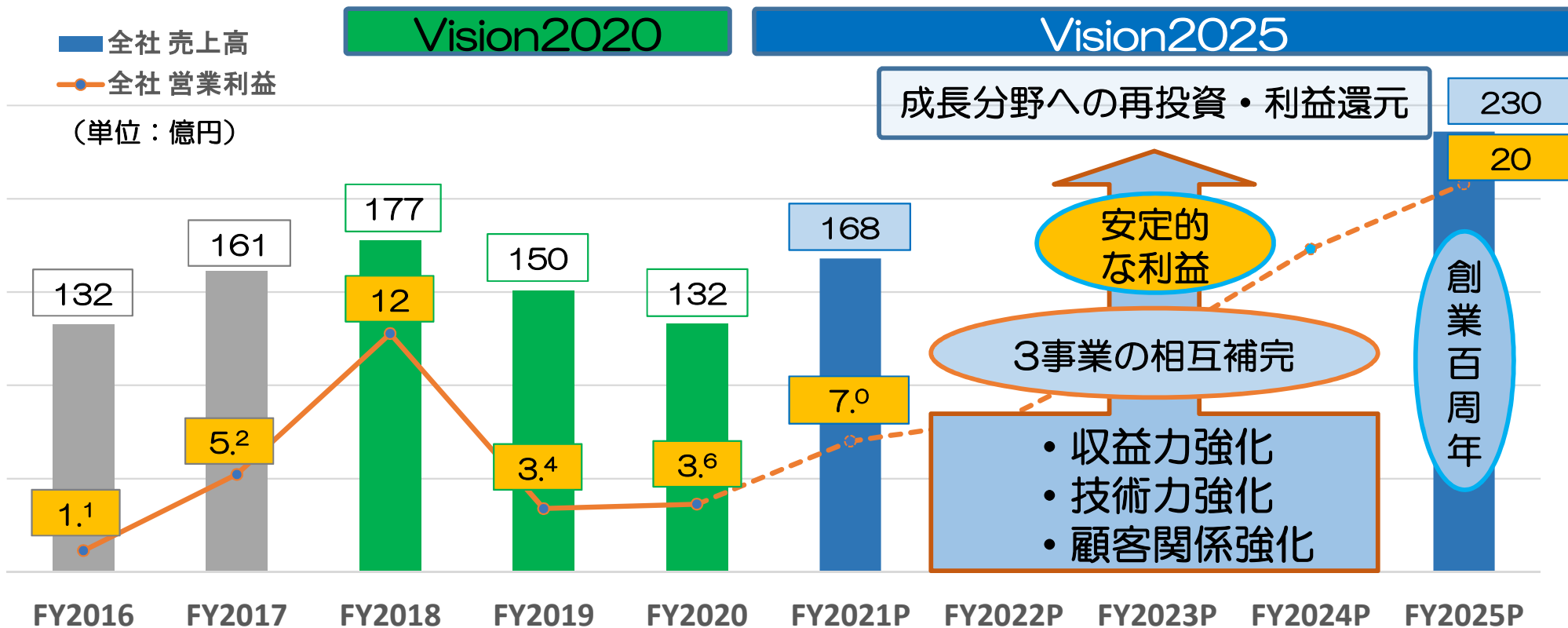
(単位の記載無い項目) 単位：百万円	2020年度 (実績)	修正前予想 (21年5月14日)	修正後予想 (21年11月12日)	前年度実績比 増減率
売上高	13,289	16,800	17,700	+33%
営業利益	362	700	880	+142%
経常利益	357	550	850	+137%
親会社株主に帰属 する当期純利益	126	340	500	+294%
1株あたり 年間配当金(円)	10円00銭	20円00銭	25円00銭	—
配当性向(%)	44.7%	33.3%	28.2%	—

- ◆ 当社の連結業績において、売上高／収益面で構成比の高い駆動システム事業に於いて、半導体製造装置・分析関連装置の分野向けを中心に受注が高水準で推移しており、第3四半期以降も当面は同様の傾向が持続する見通し。
- ◆ 上記を要因として、全社の売上高／収益についても当面は順調な推移が見込め、修正前の2021年度通期連結業績予想の数値を上回る見込みとなったことから、売上高／営業利益／経常利益／親会社株主に帰属する当期純利益を、それぞれ上方に修正。
- ◆ 同時に1株あたり年間配当金の予想額を20円／1株から25円／1株に引き上げ。

セグメント	見通し、計画
<p>駆動システム事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 主力の半導体製造装置・分析関連装置分野向けボールねじを中心に前期に引き続き需要は旺盛。高水準の受注継続を見込む。 ◆ 中期投資計画の前倒し実行により、足もと生産体制の更なる強化を図り、納期短縮と売上増加に繋げる。
<p>金型システム事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 主力の車載用／家電用のモーターコア金型およびモーターコア製品は、前期に引き続き好調な需要を維持する見込み。 ◆ 中期投資計画に沿って、金型およびモーターコア製品の供給力の増強を図る計画。 ◆ 一方、部材不足による顧客側生産調整の影響を受ける懸念あり
<p>機工計測システム事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 工作機械、要素機器ともに自動車／産業用ロボット分野を中心に需要は緩やかに回復傾向。受注の回復を見込む。 ◆ 一方、電装部品等の調達難、輸送費高騰などの懸念要素あり

中期経営計画 Vision2025（概要）

新中計 Vision2025 の位置付け



- ◆ 新たな成長軌道への飛躍と安定的に利益を生む収益構造への転換を目指す5年
- ◆ 収益力強化・技術力強化・顧客関係強化を柱とした施策の実行、3事業の相互補完
- ◆ 全社ベースで安定的に収益を生み、成長分野への再投資と利益還元に充当
 - ・ 好況時の業績底上げと不況時にも安定的に利益を生む体質への改善
 - ・ 共通基盤としてのDX化の推進 ⇒ 生産性/品質の向上、柔軟な製造/販売体制の確立
カスタマーサービス向上 など
- ◆ ESG経営：環境投資の実行、働き方改革の推進、情報セキュリティ強化 など

精密技術を通じて世界の産業の高度化をサポートする

各事業においてグローバルニッチトップ
安定的な利益

収益力強化

値決め経営
自動化・生産性向上

技術力強化

ロードマップ
形式知化

顧客関係強化

市場多角化
VIPカスタマー戦略

人材育成・DX

コンプライアンス・安全・健康・環境・品質

金型システム

生産性・品質向上
提携先支援

駆動システム

納期短縮「誰よりも早く
お客様のニーズに応える」

機工計測システム

生産性・品質向上
多彩なソリューションの実現

スマートファクトリー/スマートワーク構想

生産性向上、品質向上、納期短縮

商品開発支援、知財管理支援、営業支援、海外業務支援

見える化



センシング→
複合データから
状況を可視化

生産管理/予防保全



設備の状況を監視→
異常感知、予兆管理
生産管理、品質管理

デジタルツイン化



シミュレーションによる試
作、性能評価→
設計リードタイム削減
手戻り最小化

匠の技の継承



熟練工の動きの
データ化→
加工ノウハウを機械
が継承

業務効率化



ITやRPAの活用→
業務の効率化、
工程管理・品質管理
の刷新

カスタマーサービス

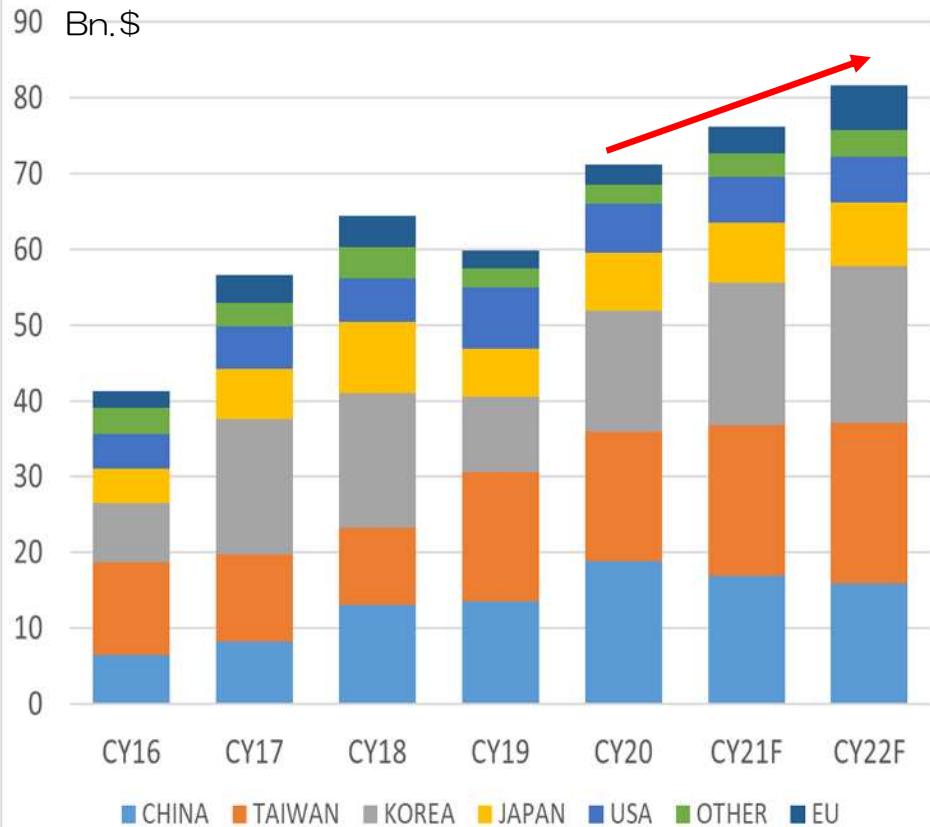


出荷後の使用状況をモ
ニタリング→
遠隔保守サービス等
ユーザーメリットとなる
サービスの提供



誰よりも早くお客様のニーズに応えられる
小型直動システムメーカーになる！

世界市場での半導体製造装置への投資動向



出典：SEMI World FAB Forecast report (2021.03.16)

＜事業環境＞

- 半導体需要の拡大、用途の更なる拡大
- 主要市場（半導体製造装置）での需要増加
- 医療/検査等、新たな成長分野での需要拡大



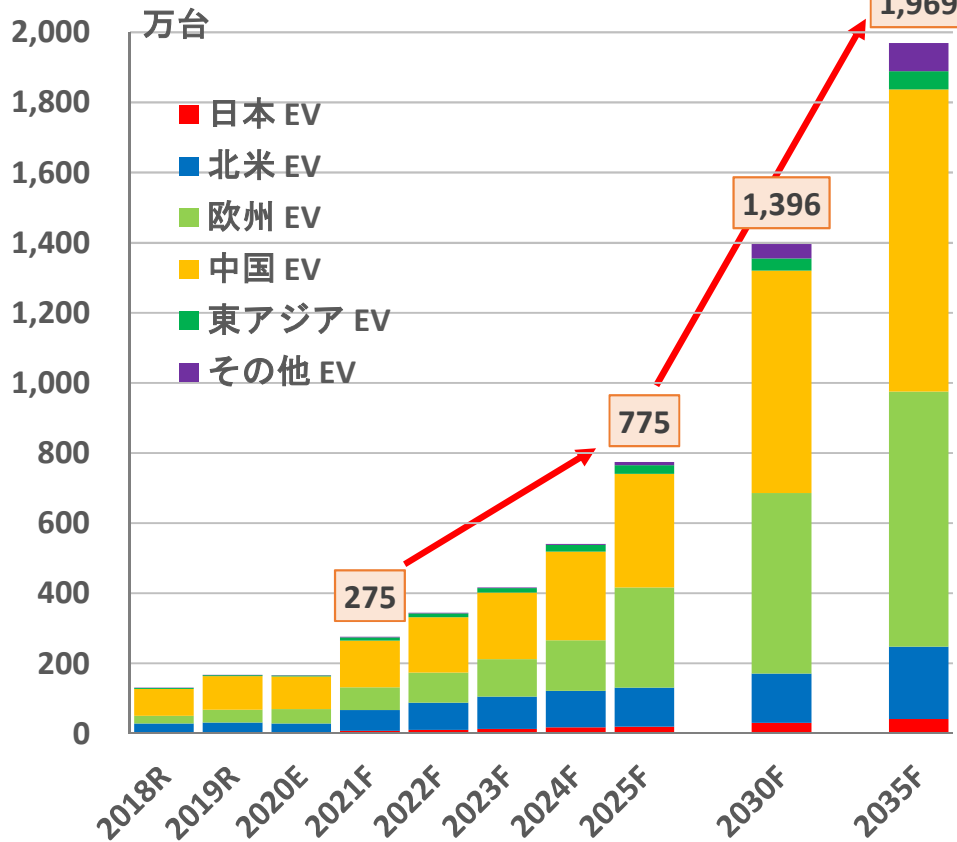
＜事業戦略＞

- 自動化生産ラインの有効活用、技能育成、及び生産管理強化による納期短縮（DX）
- 国内外営業/流通体制の強化
- 半導体以外の分野開拓、顧客内シェア向上
- 直動システム事業の強化



高効率モーターコアのスペシャリスト
 駆動モーター用大型金型でNo.1
 薄板コアでNo.1

地域別EV車市場規模予測



出典：富士経済 HEV, EV関連市場徹底分析調査（2020年版）

<事業環境>

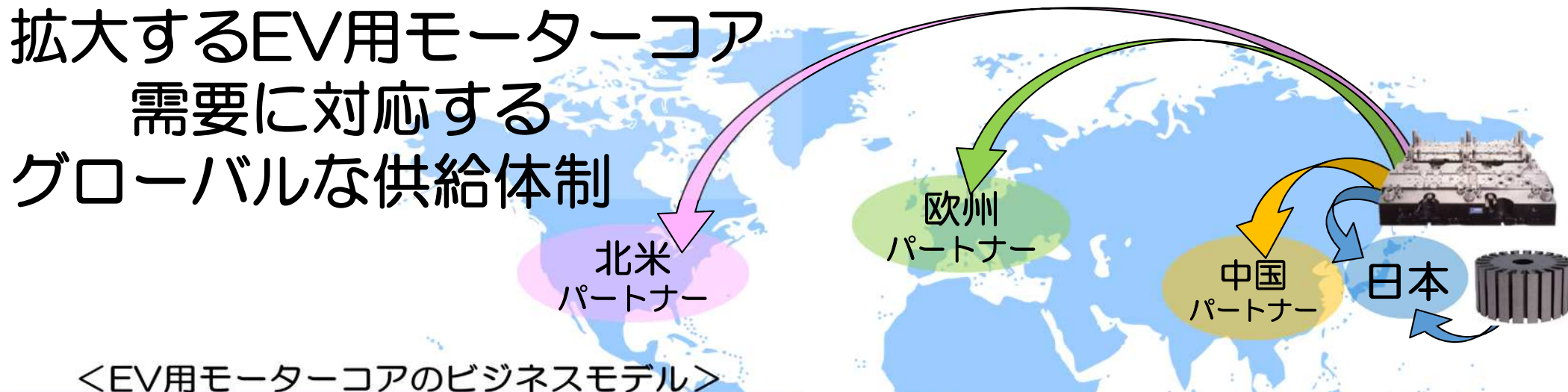
- グローバルな脱炭素化の流れ加速
- 車載用/家電用とも高効率モータ需要の拡大
- 中国EV市場の急拡大



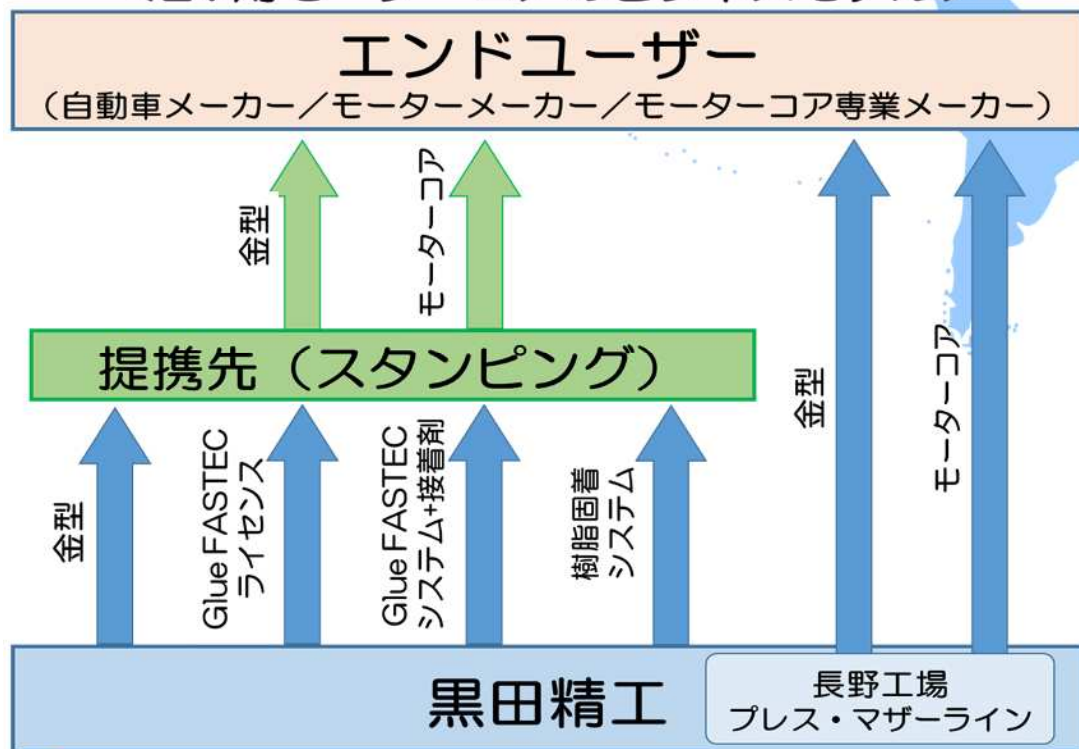
<事業戦略>

- コア量産プロジェクトの確実な推進
- PJマネジメント力強化、採算管理の強化
- 金型/コア製造プロセスの形式知化（DX）
- 国内外に於けるアライアンス戦略推進
- EV主戦場=中国で新たな提携の枠組み構築

拡大するEV用モーターコア 需要に対応する グローバルな供給体制



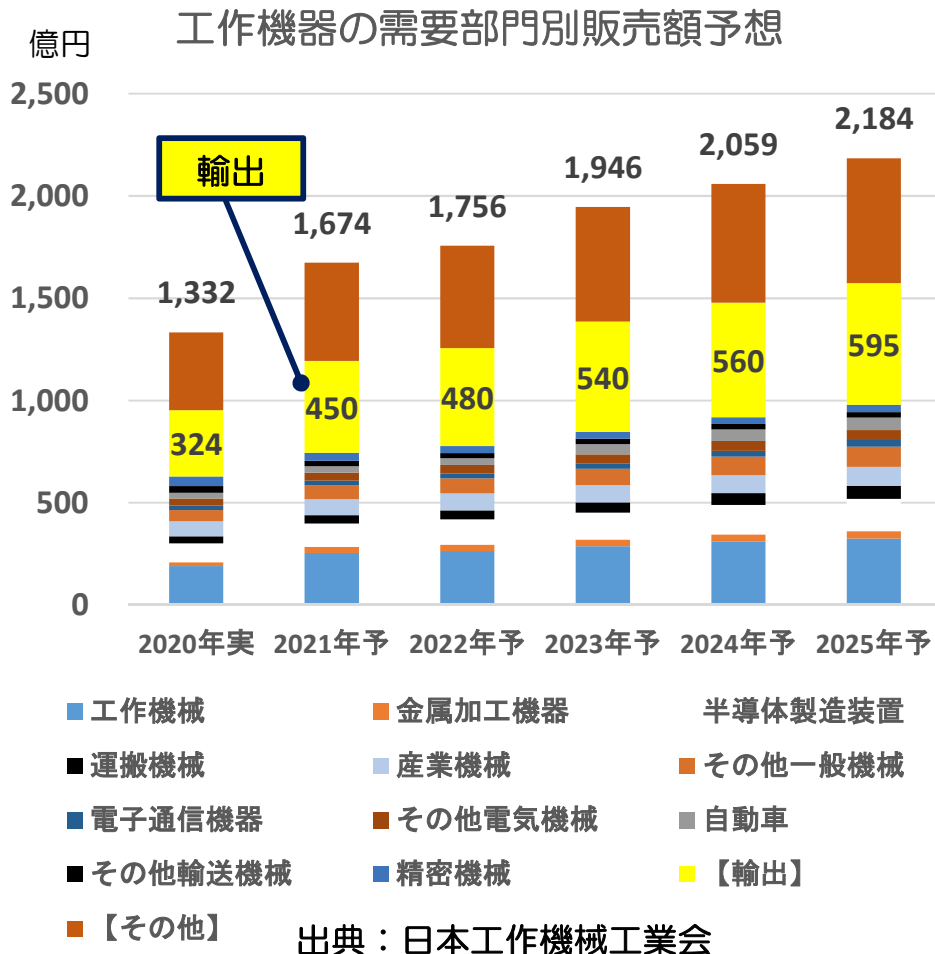
＜EV用モーターコアのビジネスモデル＞



- ◆ 前中計期間において国内外で獲得したEV用モーターコアの量産プロジェクトが順次本格的に始動。
- ◆ 金型供給能力の向上と、国内外の提携戦略推進により、拡大するモーターコア需要に対応。国内では大型プレス装置の増設。
- ◆ 特にEV年間販売台数において世界最大数が見込まれる中国市場では、新たな提携の枠組み構築を検討中。
- ◆ 本中計期間（21～25年度）において、EV用金型の年間平均受注台数を、前中計期間と比較して約3倍とする計画。



確かな計測と加工技術で
Smart Solution プロバイダーを目指す！



＜事業環境＞

- 21年以降国内市場は回復基調、輸出も拡大
- 医療/検査、ロボット、EV等で新規需要
- 中国、アジア圏の市場拡大

＜事業戦略＞

- 新商品/ソリューション開発
- 生産/品質管理の抜本的改善（DX）
- 海外販売/サービス提供体制の強化

計画期間グループ全体で**73億円**程度の
設備投資、研究開発投資、および事業投資を実施
(事業環境・受注環境に応じ段階的に実施)

本社 **約14億円**
DX化投資、環境対応投資 等

駆動事業 **約25億円**
自動化ライン拡張、ねじ研削盤 等

金型事業 **約26億円**
大型プレス装置、マシニングセンタ、事業提携 等

機工計測事業 **約5億円**
加工センター、円筒研削盤 等

海外子会社 **約3億円**
設備更新 等

Environment 【環境】

- 環境方針の順守、環境マネジメントの継続的な改善
- CO2排出量削減目標（国内）の達成に向けたアクション
2018年対比 ⇒ 2030年△29%、2050年△80%
（新たな政府方針を受けた、目標値の見直しと計画の再設定）
- 環境負荷の低減に貢献する分野での事業展開
例）電動アクチュエータ、新エネルギー車駆動用モーター
エコセーバ（微小切削油供給機）

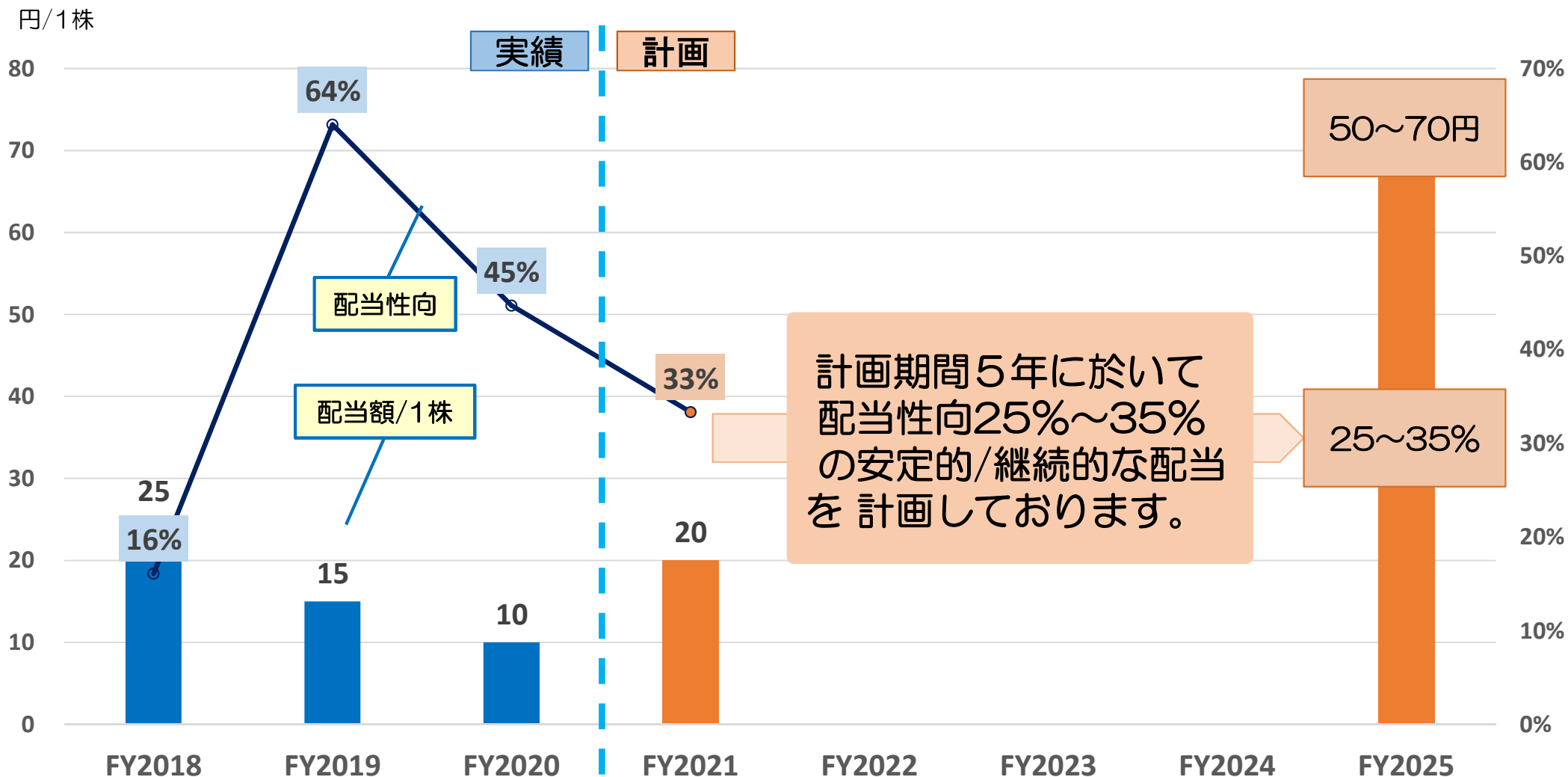
Society 【社会】

- 品質・健康・安全第一への継続的取り組み
- ワークライフバランスと多様性、高齢化社会に配慮した人事制度の拡充
- 人財ロードマップに基づく人財育成
- 働き方改革の更なる推進 ⇒ DXを活用した業務効率化
- ポストコロナ時代のスマートワーク構想の具体化

Governance 【ガバナンス】

- グループ全社でのコンプライアンス、内部統制制度の徹底
- DX化に対応した情報セキュリティ管理の強化

企業体質強化のための内部留保の充実を勘案しつつ、業績に裏づけされた安定的な配当を継続して行うように努めます。



	前中計		新中計	
成長性	売上高	【2020年度】 200億円	売上高	168億円～230億円
収益性	営業利益	安定的に10億円 の営業利益	営業利益率	4%超～8%
効率性	ROE	【2020年度】 7.3%	ROE	5%超～10%
安定性	—	—	自己資本比率	45%以上
配当政策	—	—	配当性向	25%～35%
投資戦略	—	—	総投資額	計画期間（5年）中 73億円程度の規模

- ◆ 当資料は、投資家の皆さまに黒田精工株式会社への理解を深めて頂く事を目的として、経営や財務に関する情報を提供するものです。
- ◆ 当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。
- ◆ 当資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠することなく、ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

黒田精工株式会社 経営企画室 IR担当

TEL：044 - 555 - 3800

ホームページ：<https://www.kuroda-precision.co.jp>